

令和4年度第2回地域連携担当者研修会

1月26日(木)

「SDGsの考え方を地域創生に生かすには?~カードゲーム「SDGs de 地域創生」から体験する~」

ファシリテーター：伊勢 みゆき 氏 (みやぎ子ども教育支援ネットワーク協議会「みずとわ」)

新田 晴之 氏 (エデュサポ・みやぎ)

サポートスタッフ：木村 一也 氏 (みやぎ子ども教育支援ネットワーク協議会「みずとわ」)

鹿野 恵美子 氏 (みやぎ子ども教育支援ネットワーク協議会「みずとわ」)



【受講者の声】※抜粋

- ・地方創生について、都市になぜ人は集まるのか?その理由がわかり、それが地方にあれば創生できると思う。大人が地方に用意し、子どもよりも大人が動く方が先なのではないかと思った。
- ・全体を見渡すこと、コミュニケーションの大切さなど、多くの学びを得ることができた。この学びを研修やコミュニティ・スクール設置に生かしていきたいと思う。
- ・協働の精神は、実務でもゲームでも大事だと気づかされた。自然と先生との会話が弾むよう工夫された研修だったと思う。小中連携の次回の打合せ等でよい意見交換ができそうだ。
- ・何を行うにも人とのつながりや対話が大切であるということを再確認した。行政の協力を得ることも大切だと思った。
- ・住民と行政が全体で目標の達成に向かったことで、個々の課題に目を向けるようになったと思う。できることから取り組むことが大切だと感じた。
- ・対話が必要ということがゲームを通して実感できた。教員として地域と対話していくことが大切であると感じた。
- ・「協力・連携・対話」の大切さを感じた。今後も意識していきたいと思う。
- ・キーワードが「対話」「協働」であった。共に「相手」が必要であり、その数を増やしながらゴールに近づくと効率化、加速化を図ることを実感できた。
- ・ゲームを通してSDGsと、その具現化について初めて考え、そして実感した気がした。
- ・地方創生を加速させるには、協働、対話を深めていくことが大切だと感じた。特にゲームを通してまち・ひと・しごととはすべてつながっていて、どれが起点となり、まちが動き、同時に達成されるものになると感じた。
- ・自ら声を出し、他のペアと協力し合って町をよくしていこうとする行動をとることが大切だと感じたし、人任せにするのではなく、自らアクションを起こすことが必要だと思った。
- ・地域連携のためにどのように動くべきなのかを体験を通して感じる事ができた。目先の目標にとらわれず、情報を共有し、ともに考え、行動を起こすことが大切だと感じた。